

C-2 評価計画

1 本時のねらいの達成について

本題材で獲得させたい見方考え方は次のとおりである。

- A 部分を加える場所のこと：どこから見ても部分がある表現をするとよい**
- ・ある方向から見ると何も無い（片側から見て表現するだけで平面的）のはさびしい。
 - ・どの方向から見ても、もようや部分が見えて楽しい。
- B 部分のつくり方のこと：部分は（できるだけ）基本の形からとび出るように加えるとよい**
- ・（平面的に貼り絵のように加えて）全体がほとんど基本の形（筒）のままではさびしい。
 - ・基本の形からとび出る形（立体的に加える形）が多く、全体が基本の形のままだはなくもの形をしていると楽しい。

したがって、本時指導案の作例提示1と2から、子どものまとめの中に、次の表のようなキーワードがあれば「AとBの見方考え方がこの段階で獲得されたととらえた。そしてさらに、その後の表現活動でAとBのことが表現として現れた場合に「意欲的に学習する姿」が成立したととらえた。

A	部分を加える場所	前だけではなく どこから見ても	横にも後ろにも（上下にも）つける
		部分が見えないところがないように	いろんな方向から見て部分を考える
B	部分のつくり方	（加えても）基本の形のままだはなく	（本物）らしい形（立体的）につくる
		（部分全体を）ぺたんと貼らない	基本の形からとび出るようにつくる

2 ワークシートでのA・Bについての評価方法について

1 感じたことや考えたことを書きましょう。

①よいと思ったのは **イ** の方です。よいことを下に書きましょう。

アは彦根を前にしないと糸会が見えないけど、イはどつてから見てももようが見えるからイがいいと思いました。

②よいと思ったのは **ウ** の方です。よいことを下に書きましょう。

イは、お花とかがあていいけど、ウは、りたいて、さぎ見えなかつらまで見えて本当の鳥だ、て分かるから

2 部分を加える時に、楽しい作品にするためにはどうすればよいですか。

①の話し合いと②の話し合いをそれぞれまとめると…

①では、どうすれば楽しい作品になるとわかりましたか。

・どこから見ても部分が分かる。ウラや上にももようがいろいろある。部分を大きく作る

②では、どうすれば楽しい作品になるとわかりましたか。

・立体自りに部分をくわえる。部分のうらのもようや色が分かる。

Aの見方考え方のこと

作例aと作例bの比較をもとに書く。

設問のようにaとのちがいを素直に書くだけよい。選択した訳を書いてもよい。話し合いのもとになる思いがもてたかを見る。

本時指導案中の評価

比較によって思いや考えを持つことができ書いている。<情報の取り出し>（ワークシート）

Bの見方考え方のこと

作例bと作例cの比較をもとに書く。

設問のようにbとのちがいを素直に書くだけよい。選択した訳を書いてもよい。話し合いのもとになる思いがもてたかを見る。

本時指導案中の評価

話し合いをふり返って「部分を加える時に大切なこと」をまとめている。<解釈>（ワークシート）

本時で獲得させたい見方考え方のこと

上表のキーワード参照。AとBのそれぞれの見方考え方を端的に正確にとらえられたかを見る。